

平成30年度 北海道教育大学札幌校教員養成課程

私費外国人留学生入試小論文問題

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子を開かないこと。
- 2 この問題冊子は、2ページ、解答用紙は2枚、下書き用紙は2枚あります。
- 3 「問1」「問2」すべてに回答すること。
- 4 解答用紙は、「問1」「問2」ともに1枚あります。
- 5 解答は解答用紙に横書きとし、句読点および段落の空白も1文字とし、指定された字数内でまとめること。ただし、題・氏名は記入しないこと。
- 6 受験番号は、解答用紙の指定欄に記入すること。
- 7 解答用紙2枚を提出し、問題冊子・下書き用紙は、試験終了後持ち帰ること。なお、いかなる理由があっても解答用紙以外は受理しません。
- 8 試験中に、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等により交換を必要とする場合は、手を挙げて監督者に知らせること。

問題 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

生物界のなかでヒトという種を特徴づけてみると、すぐれた学習能力がほぼ一生にわたって維持される、ということが第一にあげられるであろう。

もともとサルの仲間は、他の大型哺乳類のように、はっきりした身体的な特徴をもっていない。たとえば、クジラは水中生活に便利のように体型が変化しており、またライオンやトラは筋肉が発達し、敏捷^{びんしょう}で、しかも鋭い牙や爪を備えている。したがって、ある環境条件下では餌を手に入れ、種族を維持していくことが容易である。反面、これらの大型哺乳類は、限られた環境下においてのみ繁栄しうる。クジラはもはや陸上で生活することはできないし、ライオンやトラは比較的大きな草食獣が手に入らなくなったらおしまいである。

これに対してサルの仲間は、そういった身体構造上の特徴をもっていない。さらにまた、生まれつきの行動の仕組みが比較的少なく、加えて雑食性でもあるところから、さまざまな環境に適応しうる。いわば、他の大型哺乳類が特殊化するという方向で進化してきたのに対し、サルの仲間はむしろ、環境に対する柔軟性において進化してきた、ということができよう。

したがって、サルの仲間では、経験にもとづいて外界についての知識を身につけることが、個体の生存にとっても、また種の維持にとってもそれだけ重要になってくる。いいかえると、サルはもともと学習する種である、と考えてよい。外界についての知識を得ること—それによって、どこが安全か、どのようにしたら食物が手に入るか、などを的確に判断できることが生存のために不可欠なのである。

しかし、このような事情は、ヒトにおいてよりいっそう顕著に認められる。ヒトは他の類人猿とくらべてさえ、生まれつきの行動の仕組みが少ない。このために、チンパンジーの子どもとヒトの子どもとを双生児のように育ててみると、はじめの数ヵ月間は、むしろヒトの子どものほうが知的にも劣っているという印象を与えるほどなのである。

さらにヒトの場合には、それぞれの個体が、みずからの直接の経験にもとづいて知識を集積するばかりでなく、他の個体の経験を、言語などを媒介にして利用することもできる。つまり、学習が社会的な性格をもつに至っている。ヒトの個体の生存や種族維持は、それぞれの個体ごとの経験にもとづく知識にばかりでなく、文化という形で集積された他の個体の経験を摂取しうる（自分のものとしうる）ことにも依存している、とさえ言うてよいであろう。こうして集積された知識がなければ、ヒトはいかにも無力な動物なのである。

稲垣佳世子・波多野誼余夫著『人はいかに学ぶか 日常的認知の世界』中公新書、pp. 4-5、1989.

問1 サルの仲間と、他の大型哺乳類のそれぞれの進化の特徴について、200字以上250字以内で述べなさい。(100点)

問2 下線部の、ヒトの学習の「社会的な性格」とはどのようなものか。具体的な例をあげて700字以上800字以内で説明しなさい。(200点)